

最優秀賞



『次は私達が』

島根県立吉賀高等学校 2年 向井 陽菜

「二人とも看護師になったらいいね。」この言葉をかけてくれたのは、私の生まれた病院の看護師さんだと母づてに聞いた。そしてこの言葉は、長い間管理入院していた母の不安をまだ見ぬ我が子の将来を楽しみな気持ちに変えてくれた言葉でもある。私は五月十二日に双子の長女として生まれた。生まれたばかりの私は、母に会うことなく保育器に入った。なぜなら、私は低出生体重児として生まれたからだ。母は長い管理入院の末、私達を帝王切開で生んでくれた。術後、歩くことができなかった母は、保育器に入っている私になかなか会うことができなかったことと、低出生体重児として生まれてきた私に責任感を感じ、涙を流すことがあったという。そんな母に看護師さんが一枚の写真を持ってきてくれた。その写真に写っていたのは、大きな口を開けて産声を上げている私だった。母は、その写真を見て私の生命力を感じ、自分も頑張ろうという活力を与えてもらったと言っていた。その日から数日後、看護師さんに新しく撮ってもらった写真が残っている。そこには嬉しそうに私を抱いている母が写っている。私が生まれるまでの話や生まれた後の話を聞いたり写真をみたりする中で、人の辛い時や嬉しい時に寄り添い、見守ってくれていたのは看護師さんであったということに気づいた。そして、今度は私が看護師という立場で患者さんやご家族の苦悩に気付き、寄り添い、先の見えない不安に少しでも希望を持ってもらえるような看護をしたいと思うようになった。私の双子の妹も医療関係の職業に就くため共に頑張っている。「看護の日」生まれの私たちが将来、患者さんの心身の健康のために多方面からサポートすることができる存在になれるように尽力していきたい。

優秀賞



『支え』

島根県立浜田高等学校 2年 大庭 愛結

私には入院経験があります。それは小学一年生の冬のことでした。熱が何日も下がらず、両親に連れられ病院を受診したところ、重い病気が見つかったのです。その日から約一年間に渡る入院生活が始まりました。

入院先の病院は自宅から遠方にありました。まだ幼かった弟たちの世話や仕事のある両親は、毎日は病院に来ることはできませんでした。そのため、私は一人病院で過ごさなければならぬ日もありました。

一人でつらい検査や治療を受けなければならない時、私の支えとなっていたのは看護師さんの存在でした。看護師さんは、検査を受ける前には、小学生の私にもわかりやすいように、ぬいぐるみを使って検査の方法を教えてくださいました。つらい検査や治療が終わった後は、「よく頑張ったね。えらかったね。」と、いつも優しく声をかけてくれました。

時には話し相手に、時には一緒に遊んでくれました。クリスマスには、母が用意してくれていたプレゼントを母に代わって私の枕もとに置いてくれた聞きました。いつも私に寄り添い、支えてくださった看護師さんの存在があったからこそ、私は前向きに治療に臨むことができました。私の入院生活は、つらいこと苦しいことだけではなく、たくさんの思い出の詰まったものとなりました。

看護師さんをはじめとする医療スタッフ、学校や地域の方々の支えによって私は病気を克服し、今、こうして元気に高校生活を送っています。

私は、いつしか看護の道に進みたいと思うようになりました。助けてもらった命です。次は私が、生まれ育ったこの地に恩返しをする番だと思っています。

私を支えてくださった看護師さんのように、私も患者さんに寄り添い、患者さんの支えとなるような看護師になりたいです。

優秀賞



『学んだこと』

島根県立松江南高等学校 2年 中尾 胡奈

中学三年生の頃、職場体験で看護体験をさせていただきました。私の行った病院は地方の中では大きく病棟にいる人の多くは60歳以上の高齢の方々でした。そこで私はシーツ交換、ゴミ捨て、食事の出し入れ、食事の介助などの体験をさせていただきました。見るものやることすべてが初めてで、戸惑うことも多かったけど貴重な体験となりました。この体験を通して心に残ったある患者さんの話を一つ紹介します。その患者さんの病院食は固形物ではなくペースト状のもので、食事を摂りたくないからなのか一口も口にしていませんでした。看護師さんが健康のため少しは食べようと言っても「いらない」と言って全然食べてくれません。ついには食べ物が入った食器をひっくり返しました。患者さんの気持ちを考えると確かに入院は辛くて苦しいことも多いだろうと想像できますが調理員さんが患者さんの栄養を考えて作ってくれたのにと考えるとショックです。だけどそんな時も看護師さんは大変な顔一つせず笑顔で対応しており疑問に思った私はなぜこんな時も笑顔で対応できるのかと尋ねたらこう答えてくださいました。「誰よりも苦しいのは患者さんだからね。辛いこともあるけど患者さんの苦しみよりはましだよ。」

当たり前だけど患者さんは一人一人違います。患者さんそれぞれの考え方を尊重しその人にあった看護をするためにも、自分の価値観ばかり押し付けてはいけません。この職業体験で看護師さんに必要なのは病気を見ることではなく、その病気を抱えている患者さんを見ることだと思いました。表ばかりで決めつけるのではなく患者さんの気持ちの変化を読み取る。看護師さんは誰よりも患者さんに近い存在であるため患者さんの理解者になれると思っています。だから私もその一人になりたいです。